

1 『考えよう、“外来種”』

ほかの地域から人の手によって持ち込まれた生きもの“外来種”を調べ、その影響や問題を考えることで、問題解決能力を育てます。

～全体の流れ～

背景

セイヨウタンポポ、アメリカザリガニなど、私たちの身近な自然の中で、もともとその土地にいなかった生きものが人間によって持ち込まれた例は多く見られます。今、こうした「外来種」と呼ばれる生きものは、もともとあった（在来の生きものによる）生態系にさまざまな影響を与えているといわれています。外来種の存在を知り、取り組まれている対策を調べ、私たちはどうしたらよいかを考えます。

ねらい

身近なところにある外来種の存在に気づき、その土地本来の自然に与える影響を調べます。調査実習によって得た科学的な情報と、他者との討論によって得たさまざまな視点から、推移した自分の考えを記録していきます。その中で自分の考えを人に伝える手法や、意見交換の必要性を知ります。全過程を通して生徒の問題解決能力を育てます。



スケジュールプラン

STEP 1
(3時間)
タイワンリスを調べよう

タイワンリス(外来種)の観察と調査をフィールドで体験します。

(詳しくは次ページへ)

STEP 2
(2時間)
外来種の情報を集めよう

外来種の種類や問題点、とられている対策をホームページや本などで調べます。

STEP 3
(2時間)
外来種について考えよう

外来種が生態系や生物多様性に与える影響を考えます。その中で外来種について、どんな考えを持っていたか、それがどう変化したか、外来種に対する考えの推移を記録します。

STEP 4
考察(1時間)
みんなで話し合おう
学校で討論会

討論会の場で、ほかの人と意見を交換します。討論会はディベート式・ロールプレイなどさまざまな方法でできます。多数の視点を得た結果、自分はどうか考え、行動するか意識を明確にします。